

## 令和3年度第1回臨時理事会議事録

日時 令和3年4月22日（木） 11:00～12:40

会場 ホテル日航新潟 4階 朱鷺

Webとのハイブリッド開催

出席者

理事長：木村 正

副理事長：青木 大輔、加藤 聖子

理事：池田 智明、榎本 隆之、大須賀 穰、岡本 愛光、亀井 良政、工藤 美樹、小林 陽一、  
古山 将康、鮫島 浩、柴原浩章、杉野 法広、関沢 明彦、竹下 俊行、永瀬 智、藤井 多久磨、  
前田長正、万代 昌紀、三上 幹男、宮本 新吾、八重樫 伸生、渡利 英道

監事：櫻木 範明、平松 祐司、藤井 知行

顧問：吉村 泰典

特任理事：海野 信也、宮城 悦子

専門委員会委員長：藤原 浩

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長兼第75回学術集会プログラム委員長：矢内原 臨

幹事兼第73回学術集会プログラム委員長：関根 正幸

幹事兼第74回学術集会プログラム委員長：矢幡 秀昭

幹事：泉谷 知明、岩瀬 春子、上田 豊、馬詰 武、木村 文則、桑原 慶充、小出 馨子、古宇 家正、  
小松 宏彰、近藤 英治、佐藤 健二、田中 博明、寺尾 泰久、土井 宏太郎、徳永 英樹、永松 健、  
松岡 歩、山上 亘

議長：光田 信明

副議長：久具 宏司、小谷 友美

弁護士：平岩 敬一

名誉会員：岩下 光利、佐川 典正、田中 憲一、中林 正雄、宮崎 康二

事務局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

午前11時00分、理事長、副理事長、理事24名が出席し（生水真紀夫理事は欠席）、定足数に達したため、木村正理事長が開会を宣言した。木村正理事長が議長となり、議事録署名人として、木村正理事長および櫻木範明監事、平松祐司監事、藤井知行監事の計4名を選出し、これを承認した。

臨時理事会の冒頭に、FIGO Organising Committee の Andre Lalonde 教授（カナダ）から、本年10月21～28日にバーチャル開催されるFIGO World Congress についての案内があった。

## I. 令和2年度第4回理事会議事録の確認

令和3年3月6日に開催され、3月30日に承認された令和2年度第4回理事会議事録を確認した。

## II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

### 1) 総務 (青木大輔副理事長)

[I. 本会関係]

#### (1) 会員の動向

- ①工藤尚文名誉会員 (岡山) が3月4日にご逝去された。
- ②富永敏朗名誉会員 (兵庫) が3月15日にご逝去された。
- ③五十嵐正雄名誉会員 (群馬) が4月9日にご逝去された。

#### (2) 令和2年度入会年度別・卒業年度別新入会員数および令和2年度末会員数について

令和3年3月31日現在の会員数は17,057名であった。 [資料:総務1]

青木大輔副理事長「令和2年度新入会員数は477名であり、このところ増加傾向にある。」

#### (3) 会費免除申請について

[資料:総務2]

山梨地方学会からの申請について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (4) 令和3年度定時総会資料作成スケジュールについて

[資料:総務2-1]

#### (5) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

##### ① 会議開催

第4回婦人科腫瘍委員会 (メール通信会議)
-----------------------

3月23日～31日
-----------

##### ② 子宮頸がん登録項目変更に関する「会員へのお知らせ」について

[資料:総務3]

八重樫伸生委員長「子宮頸がん進行期分類が改定されたので、それに沿って症例登録を行ってほしいことを会員に周知するものである。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

##### ③ 令和3年度婦人科腫瘍委員会委員名簿について (修正版)

[資料:総務4]

八重樫伸生委員長「3月の理事会で提出した委員名簿に一部漏れがあったので、この修正版を承認いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

##### ④ 婦人科癌取扱い規約病理編改訂のための編集委員について

[資料:総務5]

八重樫伸生委員長「2022年12月の発刊を目指して、婦人科癌取扱い規約改訂に関する小委員会と、編集委員会を組成したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ハ) 周産期委員会

①メチルドパの安定供給に対する学会要望書について [資料：総務6]

池田智明委員長「妊産婦の高血圧対応薬なので、厚生労働省保険局医療課あてに要望書を提出したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②出生前検査における染色体マイクロアレイ検査の利用上の留意点および出生前検査に関する周産期委員会報告の位置付けについて [資料：総務7、8]

関沢明彦理事「この留意点は周産期における遺伝に関する小委員会できりまとめたものである。将来的にはNIPTについてもこのなかでまとめていければと思う。本件は倫理委員会でも審議いただいた上でまとめている。また日本人類遺伝学会にも意見を求めている。この留意点は本会ホームページの周産期委員会報告に掲載する予定である。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③精神疾患合併妊産婦診療ガイド各論編の公開日について [資料：総務9]

- ・ 前回の理事会でお示した最終案から DSM5 の記載が文中に組み込まれた
- ・ 公開日は4月23日である

④「日本における新型コロナウイルス感染妊婦の実態把握のための多施設共同レジストリ研究・症例登録のお願い」について、学会ホームページに掲載して会員へメールを送り、さらに機関誌にも同梱して周知したい。 [資料：総務10]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①書籍頒布状況 (4月9日現在)

	3月6日 理事会報告	～4月9日	合計
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲスチン配合薬ガイドライン 2015 書籍版	6,596	15	6,611
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲスチン配合薬ガイドライン 2020 書籍版+電子版用 ID・PW 付		508	508
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	3,643	55	3,698
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用 ID・PW 付	1,273	38	1,311
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	1,125	23	1,148

②「月経困難症診療の変化の調査と啓発活動に関する小委員会」の追加設置については、3月6日開催の令和2年度第4回理事会で承認いただいたが、収支計画についてもご承認いただきたい。

[資料：総務11]

加藤聖子委員長「今年度までは社保で担当していた婦人科特定疾患治療管理料に関するプロジェクト

は女性ヘルスケア委員会で担当することになった。それについては3月の理事会で承認いただいたが、今回はこのプロジェクトに関する経費の200万円を承認いただきたい。具体的にはこの事業の後援、研修、アンケートなどの費用であり、将来常置の事業にするために必要な経費と考えている。これにより、女性ヘルスケア委員会の今年度予算は600万円となる。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ホ) 専門委員会小委員会委員について [資料：総務12]

令和2年度第4回理事会で承認を受けた小委員会設置案をもとに推薦された各小委員会委員ならびに専門委員会幹事は、定時総会後の令和3年度第3回臨時理事会で承認される。

**青木大輔副理事長**「規約上は、原則として小委員会委員は5名以内となっているが、それを上回っているケースがあり、また規約にないオブザーバーが入っている。今後、検討していきたい。」

**木村正理事長**「規約で決まっていることを十分周知いただき、原則と実際の運用の在り方など、機関誌での委員会委員名簿掲載を含めて検討いただきたい。」

(6) 提供配偶子を用いる生殖医療に関する検討委員会の活動について [資料：総務12-1]

**木村正理事長**「検討委員会を集中して開催いただき、大体の方向性はまとまってきた。今後、理事会に答申いただき、その後、これをどう使うかについて、状況を見ながら検討したい。」

(7) 旧優生保護法検討委員会

会員、名誉会員に対して2月15日(月)～2月28日(日)(実際のクローズは3月1日(月)12:00)にアンケート調査を行い、その回答結果をコンベンションリンクページが集計した。現在検討委員会でこの回答内容を検討中である。

**加藤聖子委員長**「一般会員2,929名、名誉会員54名の回答があった。近日中に通信の委員会を開催して、まとめた回答結果を定時していきたい。」

(8) 第75回学術講演会の委託業者選定について

**岡本愛光第75回学術集会長**「委託業者には株式会社コングレを選定した。」

(9) HPVワクチンに関する要望書を、日本産婦人科医会と連名で、3月29日に厚生労働大臣あてに提出した。 [資料：総務13]

(10) フジテレビ番組審議会への問題提起と要望について

**木村正理事長**「フジテレビのバラエティ番組で、NIPT無認可施設の院長という人が医学的に間違っていることを言っていたので、フジテレビと放送倫理審議会に抗議文を出した。残念だがこれ以上の対応は難しいと思われる。本会としては今後とも毅然とした対応を取っていく。」

(11) 本会システム全般の現状調査と効率化に向けてのコンサル活用について

**青木大輔副理事長**「運営委員会では事務局のシステム化に取り組んでいるが、コンサルを活用するなどして専門家の意見を聞くようにしていきたい。」

## [II. 官庁関係等]

(1) 厚生労働省からの会員周知依頼について

①本会ホームページに掲載し、会員に周知した

部署	内容	資料

子ども家庭局母子保健課	「生殖補助医療の提供等及びこれにより出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法律」の施行について	総務 14-1
子ども家庭局母子保健課	「妊産婦のための食生活指針」の改定について	総務 14-2
子ども家庭局母子保健課	「産後ケア事業の実施に当たり留意すべき事項及び消費税の取扱いについて」及び「母子保健法の一部を改正する法律に関するQ&A」に係る情報提供について	総務 14-3、 総務 14-4

**櫻木範明監事**「産後ケア事業は、最大の妊産婦死亡原因が自殺であることや乳幼児の虐待死が多いことを受けて始まった。産婦人科だけでなく小児科、精神科も関連し、プレコンセプションケアにも関わることなので、国の動きについて学会としても情報収集などを含めて、対応する必要がある。」

**木村正理事長**「これは病院も事業主体になるので、会員の先生の施設でも十分に対応できる事業である。働き方改革と絡めて分娩体制の変更を求めていくことが重要だと考えている。」

②厚生労働省子ども家庭局母子保健課から、不育症助成事業について産婦人科医療機関への周知依頼があった。本件は本会からの会員へのお知らせとしてホームページに掲載した。

[資料:総務 15]

**竹下俊行理事**「流産胎児の染色体検査などの不育症検査への助成金事業である。不育症ガイドラインの作成も依頼されたが、時間が限られているため、ガイドラインに準じる形の提言を作成した。」

(2) 内閣府より、第4回野口英世アフリカ賞受賞候補者の推薦依頼を受領した。 [資料:総務 15-1]

### 〔Ⅲ. 関連団体〕

#### (1) 日本医師会・日本医学会

①会員への周知依頼に基づき、本会ホームページに掲載したい。

依頼元	内容	資料
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課・医薬・生活衛生局医療機器審査管理課	「承認申請等におけるレジストリの活用に関する基本的考え方」について	総務 16-1
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課・医薬・生活衛生局医療機器審査管理課	「レジストリデータを承認申請等に利用する場合の信頼性担保のための留意点」について	総務 16-2
厚生労働省医政局研究開発振興課	「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の制定」について	総務 16-3
厚生労働省雇用環境・均等局雇用機会均等課	働く女性の母性健康管理に関する周知への御協力について	総務 16-4
医薬品医療機器総合機構レギュラトリーサイエンスセンター	MID-NET の利活用に係る申出等の事務処理手続の取扱いについて	総務 16-5
厚生労働省医薬・生活衛生	「病院における高齢者のポリファーマシー対策の	総務 16-6

局医薬安全対策課	始め方と進め方」について	
医薬品医療機器総合機構審査マネジメント部イノベーション実用化支援・先約相談課	レギュラトリーサイエンス戦略相談に関する実施要項の一部改正について	総務 16-7
厚生労働省医政局医事課	令和3年度版 死亡診断書(死体検案書)記入マニュアルについて	総務 16-8

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②日本医学会から、厚生労働省のヒアリング調査（医師の働き方改革における C-2 水準の対象技能に関する調査研究）への協力依頼があり、3月10日にヒアリングがあった。サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会のメンバーを中心に対応した。 [資料：総務 17]

**木村正理事長**「基本的には産婦人科の業務はすべて C-2 水準の対象技能になるのではないかと、どの方向性で回答した。」

③日本医学会から、日本造血細胞移植学会の名称変更についてのアンケートを受領した。本会としては問題ない旨を回答した。 [資料：総務 18]

④日本医学会連合では、COVID-19 ワクチンの普及と開発に関する提言を公開した。 [資料：総務 19]

⑤日本医師会が、厚生労働省に対して母体保護法に係る疑義についての照会を行い、同省からの回答があった。これを本会ホームページに掲載して会員に周知した。 [資料：総務 20]

⑥2020年度日本医学会新規加盟学会について [資料：総務 21]

**青木大輔副理事長**「日本骨代謝学会と日本婦人科腫瘍学会の加盟が認められた。これで産婦人科領域の4つのサブスペシャリティ学会すべてが日本医学会に加盟することになった。」

⑦日本医学会連合より、次期役員候補者の推薦依頼を受領した。本会からの理事候補として、現職の苛原稔先生を推薦したい。 [資料：総務 22]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

⑧日本医師会より、2021年度「日本医師会医学賞」ならびに「日本医師会医学研究奨励賞」候補の推薦依頼を受領した。 [資料：総務 23]

**木村正理事長**「学術奨励賞受賞者の先生に、学術委員会から打診していただきたい。」

## (2) 日本がん・生殖医療学会

日本がん・生殖医療学会より、「乳がん患者の妊娠・出産と生殖医療に関する診療ガイドライン 2021年版（案）」に対する外部評価依頼を受領した。生殖・内分泌委員会と周産期委員会で確認いただきたい。 [資料：総務 24-1, 24-2, 24-3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## (3) 日本造血細胞移植学会

日本造血細胞移植学会より、臍帯血移植件数についての報告を受領した。 [資料：総務 25]

(4) 日本医療機能評価機構

日本医療機能評価機構より、「第 11 回産科医療補償制度再発防止に関する報告書」に記載されている「産科医療関係者に対する提言」への取り組み依頼を受領した。 [資料：総務 26]

(5) 日本病態プロテアーゼ学会

「第 26 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会」への後援名義使用依頼を受領した。例年の依頼であり、また経済的負担はなく、これを応諾したい。 [資料：総務 27]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 国立国際医療研究センター

国立国際医療研究センターから、患者レジストリ及びコホート研究についての 2020 調査があり、これに回答した。

(7) 日本蘇生協議会

日本蘇生協議会から、「JRC 蘇生ガイドライン 2020」ドラフト版へのパブリックコメント周知依頼があり、本会のホームページに掲載して会員に周知した。 [資料：総務 28]

(8) 臨床試験医師養成協議会

臨床試験医師養成協議会から、本年 6 月からの理事（任期 2 年）の推薦依頼を受領した。現在の理事である佐藤豊実先生の下承が得られたので、本会として佐藤豊実先生を推薦したい。

[資料：総務 29]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) 女性アスリート健康支援委員会

本会は女性アスリート健康支援委員会の構成団体であり、各構成団体は正会員（社員）を 2 名ずつ選出することになっている。本会からは、木村正理事長と青木大輔総務担当副理事長を選出したい。正会員の任期は 1 年である。 [資料：総務 30]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(10) 日本生殖医学会

日本生殖医学会より、「生殖医療ガイドライン（案）」の確認依頼と、本ガイドラインへの後援依頼を受領した。生殖・内分泌委員会において、特に問題となる内容は無いことを確認いただき、文言についての意見を日本生殖医学会に提出した。 [資料：総務 31, 31-1]

(11) 日本臨床腫瘍学会

日本臨床腫瘍学会より、2022 年度診療報酬改定における共同提案についての検討依頼を受領した。社保委員会でも検討いただき、これに応諾した。 [資料：総務 32]

(12) 東京がん化学療法研究会

東京がん化学療法研究会より、「第 21 回臨床腫瘍夏期セミナー」（開催日：7 月 16 日・17 日）への後援名義使用依頼を受領した。例年の依頼であり、また経済的負担はなく、これを応諾したい。

[資料：総務 33]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(13) 予防接種推進専門協議会

予防接種推進専門協議会は、4月6日に小池百合子東京都知事、橋本聖子東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長に「第32回オリンピック競技大会(2020/東京)、東京2020パラリンピック競技大会の円滑な運営のための感染症対策に関する要望書」を提出した。本会はこの要望書の参加学術団体となっている。 [資料:総務34-1、34-2]

(14) 日本外科感染症学会、日本形成外科学会

「切開創SSIに対するNPWT機器の適正使用にかかる提言」は、日本外科感染症学会、日本形成外科学会を中心に取りまとめられ、本会など10学会の連名で厚生労働省保険局医療課に提出した。 [資料:総務35]

(15) 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構より、「遺伝性乳癌卵巣癌(HBOC)診療ガイドライン2021年版」に対する評価依頼(期限5月6日)を受領した。婦人科腫瘍委員会で確認いただきたい。 [資料:総務36]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(16) 日本肝胆膵外科学会から依頼されていた「転移性肝がん国際診療ガイドライン」(本年6月出版予定)の評価者として、本会から永瀬智先生を推薦した。

[IV. その他]

(1) CSLベーリング株式会社から、アンスロビン®P500及び1500注射用の供給停止事前報告書を厚生労働省医政局に提出したとの報告があった。 [資料:総務37]

2) 会 計 (池田智明常務理事) 特になし

3) 学 術 (大須賀穰常務理事)

(1) 学術委員会

①会議開催

令和3年度第1回学術担当理事会	5月28日(金)	予定
令和3年度第1回学術委員会	5月28日(金)	予定

②他団体の特別賞推薦について

2021年度日本学術振興会「育志賞」(6月1日〆切)について通信審査を行い、第1回理事会(5月29日)に答申する予定である。 [資料:学術1]

③学術委員会ホームページ

学術委員会ホームページは、学術講演会ホームページも兼ねて、独自運営し情報を発信してきたが、第71回学術講演会より、コンベンションからの配信に切り替えたことにより、現在は、学会賞や各回の学術講演会での公募の情報等の定例情報の掲載、配信となっている。学術委員会と

して独自のホームページを維持していく必要性が薄れてきたことと、情報の管理の一元化が学会としても望ましいという状況を鑑み、学会ホームページのフォーマットに移行させ、広報委員会に管理委託した。

## (2) プログラム委員会関連

### ①第 74 回学術講演会プログラム委員会

シンポジウム座長については、以下の先生に依頼した。

シンポジウム 1 (腫瘍) : 渡利英道先生 (北海道大学)、梶山広明先生 (名古屋大学)

シンポジウム 2 (周産期・生殖) : 三浦清徳先生 (長崎大学)、池田智明先生 (三重大学)

**大須賀穰常務理事**「学術集会の Award については、従来より、参加した人のなかで質疑応答を行って決めることになっており、理事会でも承認されている。今回は日々状況が変わるコロナ禍のなかでそれで公平かという意見もあったが、学術委員長の判断で変更しないこととした。ただ会場に来られなかった人には担当校から手紙と記念品を贈るといのようにしたい。」

**榎本隆之第 73 回学術集会長**「記念品として魚沼のコシヒカリを贈りたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 4) 編集 (加藤聖子副理事長)

### (1) 会議開催

JOGR ミニ編集会議	3月24日
-------------	-------

### (2) JOGR 投稿状況 (4月14日現在)

	2019	2020	2021
Pending / Withdrawn	28	128	426
Accepted	279	435	17
Rejected	1198	1899	397
Grand Total	1505	2462	840

### (3) JOGR の投稿論文 ペーパーミルに関して

[資料:編集 1]

ペーパーミルとは本当の研究に似せた不正論文作成・販売を行う、違法となる可能性がある営利団体に、論文投稿の代行、採択論文のオーサーシップの販売を行うこともある。販売される論文の構成や実験のアプローチ、図の類似さによって検出されることがある。

**加藤聖子副理事長**「一部の国でペーパーミルと疑われる論文投稿が増えており、今回の学術集会の編集委員会企画のコマで、ペーパーミルについて問題提起を行う予定である。」

### (4) JOGR サブ EIC について

JOGR 投稿数が増加し、Editor in Chief の負担が重くなっているため、分野ごとにサブ EIC を設置し、以下の先生方をお願いしたい。

①周産期: 下屋浩一郎先生、吉田幸洋先生

②腫瘍: 加藤聖子先生、梶山広明先生 (編集委員会委員長補佐をしてもらう予定)

③ウロギネ・ヘルスケア・不妊・腹腔鏡: 古山将康先生・久具宏司先生

(5) 機関誌同梱依頼 [資料：編集2、3]

- ①和文機関誌5月号との同梱希望が周産期委員会よりあり、承認したい。
- ②和文機関誌6月号との同梱希望が(株)カイトーよりあり、承認したい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 5) 渉外 (岡本愛光常務理事)

(1) FIGO Women's Awards 2021 候補者として、本会より加藤聖子副理事長を推薦したい。

[資料：渉外1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 4月8～9日に FIGO Council meeting がWeb開催され、本会より岡本愛光渉外委員長が出席した。

[資料：渉外2]

(3) FIGO Election 2021 (10月投票) について

① FIGO より、Nominations Procedures 2021 を受領した。 [資料：渉外3]

② Council 選挙活動の為の Position Paper について [資料：渉外4]

## 6) 社 保 (万代昌紀常務理事)

(1) 技術評価の適正化のための手術に関する調査 (対象：令和2年10-11月実施手術) の結果による多  
嚢胞性卵巣焼灼術(腹腔鏡下)の外保連試案点数変更について

**万代昌紀常務理事**「実態調査により手術時間が引き下げられたことで、点数が下がる可能性がある。」

(2) 令和4年度診療報酬改定提案を提出した。 [資料：社保1]

(3) 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤の供給継続の要望について、医師会より周産期、および生殖領域  
より各1名の代表者紹介の依頼を受け、池田智明周産期委員長、および寺田幸弘先生(日本生殖医  
学会社保担当理事)を選出した。

(4) 器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修について [資料：社保2]

**万代昌紀常務理事**「6,500名程度が受講した。6月からは女性ヘルスケア委員会に引き継がれる。」

## 7) 専門医制度 (八重樫伸生常務理事)

(1) 日本専門医機構関連

① 会議開催

日本専門医機構 第5回基本領域連絡委員会(プログラム、認定更新等)	3月11日
日本専門医機構 第10回理事会	3月19日
日本専門医機構 第1回臨時社員総会	3月31日

- ②「専門医の認定・更新」に関する補足説明 ver. 9.8」は共通講習の内容をさらに検討することになった。本整備指針は、2021年度以降に新規機構認定専門医を取得するものを対象とする。上記以外の学会専門医または機構認定専門医は、従来の整備指針補足説明に準拠し、II-(2)-8 多様な地域における診療実績以外の変更点(2 診療実績の証明、3 専門医共通講習、4 領域講習、7 更新審査)の項目については2025年までの猶予期間を設け、各基本領域学会においては、規定等の変更手続きをお願いしたい、と機構から説明があった。 [資料: 専門医 1-1、1-2]

木村正理事長「理事の先生方には、この資料をご覧いただき最近の動向を確認していただきたい。」

- ③2020年度機構専門医認定証に本会名の誤記があった。

- ④2021年度に研修を開始する専攻医のための産婦人科研修管理システム開始について各基幹施設へ通知し、4月1日から利用が開始された。 [資料: 専門医 2]

- ⑤2021年度に研修を開始する専攻医のための専門研修プログラム概要の分析結果について [資料: 専門医 3]

八重樫伸生常務理事「5都府県とそれ以外で研修の質は変わらないことが読み取れる。」

## (2) サブスペシャルティ関連

- ①既にサブスペ領域に認定されている内科・外科・放射線科の24領域の他に21領域が申請し、サブスペシャルティ領域検討委員会では11領域を承認する案が提出された。しかし、「サブスペシャルティ領域専門医制度認定のための基準(改訂版)」の基準を完全に満たしたのは1領域のみで、委員会では議論百出となった。

## (3) 学会専門医関連

### ①会議開催

第1回臨時中央専門医制度委員会	3月26日
第6回研修システム小委員会	3月29日
第1回中央専門医制度委員会	5月16日【予定】

- ②2021年度専門医認定二次審査について [資料: 専門医 4-1~4-4]

八重樫伸生常務理事「基本的には昨年と同様に行うが、面接については2名で行い、面接の様子を動画で撮って事務局に提出するようにしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ③2021年度の専門医制度諸審査申請に関わる単位の取り扱いについてホームページへ掲載した。 [資料: 専門医 5]

- ④2021年度の学術集会・研修会等の単位の取り扱いについてホームページへ掲載した。 [資料: 専門医 6]

## 8) 倫理 (三上幹男常務理事)

### (1) 会議開催

令和2年度第5回倫理委員会	3月16日 (Web 会議)
令和3年度第1回着床前診断に関する審査小委員会	4月20日
令和3年度第1回倫理委員会	5月11日予定 (Web 会議)

### (2) 本会の見解に基づく諸登録 (令和3年3月31日)

- ・ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：95 研究
- ・体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：626 施設
- ・ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：626 施設
- ・顕微授精に関する登録：595 施設
- ・医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：144 施設
- ・提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

### (3) 着床前診断に関する申請・認可について

- ・施設申請 176 件《承認 164 施設 (うち 22 施設は条件付)、照会 10 施設、審査中 2 施設》  
[資料：倫理 1-1]
  - ・症例申請：973 例《承認 869 例、非承認 33 例、審査対象外 35 例、取り下げ 5 例、照会 24 例、保留 2 例、審査中 5 件》(承認 869 例のうち 128 例は条件付) [資料：倫理 1-2]
- 三上幹男常務理事「着床前診断については、3 回の倫理審議会を経て、ホームページにその報告書を掲載して意見を求めている。その意見を付けて最終報告書とし、それをもとに着床前診断に関する審査小委員会、倫理委員会、理事会を通して決めていくという方向である。」

### (4) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

- ・東海大学医学部専門診療学系産婦人科学 吉田浩会員より日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録データベース使用申請として承認された、「1) 本邦における子宮体癌に対する低侵襲手術 (MIS) の実態調査—日本産科婦人科学会悪性腫瘍登録データからの分析、2) 本邦における子宮体癌に対する低侵襲手術 (MIS) の実態調査」について審査を行い、3月26日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 2]
- ・徳島大学大学院医歯薬学研究部 苛原稔会員より日本産科婦人科学会婦人科周産期登録および ART データベース使用申請として承認された、「生殖補助医療と妊産婦、胎児・新生児リスクとの関連に関する研究」について審査を行い、3月30日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 3]
- ・大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学 上田豊会員より日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録データベース使用申請として承認された、「子宮頸がん症例に対する手術療法・放射線療法 (同時化学放射線療法) ・化学療法の成績における年齢因子の影響の解析」について審査を行い、3月31日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 4]
- ・国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター 左合治彦会員より日本産科婦人科学会婦人科周産期登録および ART データベース使用申請として承認された、「周産期関連データベースの連結可能性に関する研究」について審査を行い、3月31日に審査結果を報告した。 [資料：倫理 5]
- ・医療法人浅田レディースクリニック 齋藤将也会員より日本産科婦人科学会婦人科 ART データベース

使用申請として承認された、「日産婦の体外受精登録データから読み解く日本の体外受精治療の現状」について審査を行い、3月31日に審査結果を報告した。 [資料：倫理6]

(5) 「臨床研究審査小委員会」協議事項

①臨床研究審査小委員会の倫理委員会からの独立について

**三上幹男常務理事**「倫理委員会は生命倫理を中心に扱っているが、臨床研究審査小委員会は研究倫理を扱っている。倫理委員会が主導している PGT-A の臨床研究を倫理委員会の中の委員会で審査しているというような矛盾がある。また一般的には倫理委員会は研究倫理の審査を行う組織とみられることが多い。倫理指針が統合されてガイドンスも出ており、倫理委員会から臨床研究審査小委員会を独立させてはいかがか。」

**木村正理事長**「具体的な委員会の名前を整理するとともに、臨床研究審査小委員会を独立させるということで進めたい。」

**三上幹男常務理事**「本会の倫理委員会は会員の倫理性を高めるという立ち位置なので、倫理委員会の名称も臨床倫理問題検討委員会というようにしてはいかがかと思う。ただこれは定款の変更にもかかる問題なので、1年間かけて検討していきたい。」

**木村正理事長**「臨床研究審査小委員会の次期体制での独立および、倫理委員会の名称変更の検討を行うことについて、ご承認いただきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②統合指針についての検討会

[資料：倫理 7-1、7-2、7-3]

**三上幹男常務理事**「医学系指針とゲノム指針が統合され、統合指針、ガイドンスが出ている。これによって立ち位置が変わる部分もあるので、臨床研究審査小委員会の外部委員の先生に参加いただいて検討会を行いたい。小委員会の問題点をまとめてどう改善していくかを検討する。この検討会については、理事会、専門委員会の先生方、登録にからむ腫瘍、生殖、周産期の関連学会の倫理委員会の先生方に参加のお声がけをしたい。」

**木村正理事長**「様々な規則が急速に変わっているのでそれに対応していきたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) がん生殖について：日本産科婦人科学会倫理委員会登録・調査小委員会内「がん・生殖医療施設認定委員会」設置について [資料：倫理 8-1、8-2]

**三上幹男常務理事**「がん・生殖医療は厚生労働省の研究班で始まり、本会は日本泌尿器科学会と協議して施設認定要件を作成したが、これは3月の厚生労働省の委員会で承認された。本件の予算執行は4月からなので、倫理委員会登録・調査小委員会内に、がん・生殖医療施設認定委員会（委員長：聖マリアンナ医科大学 鈴木直先生）を設置して施設認定を実施して行きたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) NIPT 指針の廃止について—厚生労働省での指針運用の開始とともに [資料：倫理 9-1、9-2]

**三上幹男常務理事**「3月末の厚生労働省の専門委員会で、日本医学会のなかに出生前検査認証制度等運営委員会を設置して3つのWGを作り、医師、看護師、有識者、当事者などを入れて運営していくことになった。基本的には一昨年の本会指針をたたき台として、8月にスタートするこの運営委員会で指針を作成するが、完成後は、本会指針は廃止となることをご了承いただきたい。その際は、理事会承認の後、総会でも承認を受ける予定である。」

**藤井知行監事**「新しい制度は早く実施させていくようにしてほしい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 臨床研究審査小委員会規約について、研究代表者・研究分担者のCOI自己申告書の新様式で改定したい。  
[資料:倫理10-1、10-2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) 倫理委員会名称について

## 9) 教育 (関沢明彦常務理事)

(1) 書籍頒布状況 (4月9日現在)

	3月6日 理事会報告	~4月9日	合計
産婦人科研修の必修知識 2016-2018	1,181	産婦人科専門医のための必修知識 2020 を刊行したため頒布中止	
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き	717		
産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集	676		
産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集	804		
用語集・用語解説集改訂第4版 (書籍版)	854	28	882
用語集・用語解説集改訂第4版 (電子版付)	982	33	1,015
専門医試験例題と解説 2016	1,380	HPに公開したため頒布中止	
専門医試験例題と解説 2017	879	66	945
専門医試験例題と解説 2018	1,529	61	1,590
専門医試験例題と解説 2019	1,388	62	1,450
専門医試験例題と解説 2020	794	65	879
専門医試験例題と解説 2021		107	107
産婦人科専門医のための必修知識 2020	1,509	360	1,869

(2) 試験問題作成について

2021年度専門医認定筆記試験問題については、各分野からの案を全体コアメンバー会議において見直しを行っている。

(3) 用語集・用語解説集について

①2025年春発刊を目指して、ファイルメーカークラウドを利用して見直しを行うべく、杏林舎並びに各分野の責任者の先生で調整を行っている。

②会員からのご意見を3月末日で一旦締切り、産科婦人科用語集改訂第5版に反映できるように今後検討を行う。

(4)産婦人科若手 Exchange プログラムについて

①第73回学術講演会時、International Workshop for Junior Fellowsの2テーマについて、日本からの担当者に対して講演内容についてアドバイスなどを行った、今回は海外からの担当者が来日せずWEB開催となるが、先生方にもぜひ講演をお聴きいただきたい。

②2022年RCOG派遣者の二次審査を第73回学術講演会時International Sessionにて行う。今回は、現地参加できる方のみを審査対象とすることとし、応募者12名にご連絡をしたところ1名のみ辞退の意向があった。

(5)ICD- 11について

社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会委員である寺尾泰久先生に第16章について対応していただいた。

10) 地方連絡委員会 (渡利英道委員長)

(1)会議開催

令和3年度地方連絡委員会 (web 会議) 開催	6月2日 (水) 【予定】
--------------------------	---------------

※第73回学術講演会期間中に現地での会議開催を予定していたが、新型コロナウイルスに関する現況を考慮し、日程及び開催方法を変更する予定である。

III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広 報 (工藤美樹常務理事)

(1)JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報1]

(2)ホームページについて

①ホームページアクセス状況について [資料：広報2]

(3)Human+/Baby プラスに関する小委員会

①3 月度の販売、ダウンロード数について

- ・HUMAN+の冊子販売：3月の月間販売数は400冊、累計186,413冊
- ・アプリ版Baby プラスのダウンロード数：3月月間DL22,814件（目標30,000件）、累計704,981件

②産婦人科診療ガイドライン産科編2020発刊に伴い、改訂した冊子版Baby プラス 第五版 が4月1日に発刊された。

③アネティスについて

- ・アネティス2021春号が発刊された。主なトピックスは「妊産婦さんのための『新型コロナウイルス対策』教室 -産後うつ編-」である。

- ・アネティスを発行している毎日新聞社より、ここ2、3年採算が合わず厳しい状況が続いたため、2021春号を最後に休刊するとの報告を受けた。今後はハーベスト(株)が引継ぎ、Babyプラスジャーナルとして発刊を続けていく予定である。本会としては引き続き、監修を行っていく。

工藤美樹常務理事「発刊継続に当たっては、契約書等を作成して進めるように申し入れた。」

(4) 女性の健康週間に関する小委員会 [資料：広報3]

3月3日(水)に開催された丸の内キャリア塾スペシャルセミナーの採録記事が4月13日(火)日本経済新聞 夕刊 全国版へ掲載され、併せて本会ホームページ女性の健康週間ページにも掲載した。

2) 災害対策・復興委員会 (永瀬智委員長)

(1) 会議開催

第1回災害対策・復興委員会 (WEB開催)	5月26日(水)
-----------------------	----------

- (2) 「大規模災害発生時に、被災地域の分娩取扱い施設で行うべきこと」WEBセミナー開催について  
 全国の分娩施設の医師・看護スタッフ・事務スタッフ等に向け、厚労科研小井土班「周産期・小児医療提供体制に関する研究」分担研究班と共同主催で、WEBセミナーの開催が5月中旬よりオンデマンド(ホームページ公開)にて開催する。多くの方に視聴してもらえるように、後援いただく3団体(日本産婦人科医会、日本周産期・新生児医学会、日本看護協会)からも周知を依頼する。

3) 診療ガイドライン運営委員会 (生水真紀夫学会側調整役欠席につき、桑原慶充主務幹事)

(1) 会議開催

ガイドライン産科編作成委員会	3月18日 (WEB開催)
	4月9日 (WEB開催)
ガイドライン婦人科外来編作成委員会	3月7日 (WEB開催)
	4月11日 (WEB開催)

(2) 2020 ガイドライン販売状況

① 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」頒布状況について (4月9日現在)

	3月6日事会報告	~4月9日	合計
書籍版(電子版付)	11,005	1,448	12,453

② 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2020」頒布状況について (4月9日現在)

	3月6日理事会報告	~4月9日	合計
書籍版(電子版付)	8,408	635	9,043

(3) 「産婦人科診療ガイドライン産科編 2023」作成委員会

- ① 三浦清徳先生(長崎大学)を委員長としてCQの見直し等を進めている。産科編については杏林舎のスカラーワンシステム(投稿システム)を利用する。

②作成協力委員として、日本周産期・新生児医学会より2名の推薦を得た。作成委員会・ML・コンセンサスミーティングへの参加などの協力をお願いする。

- ・北里大学医学部附属新世紀医療開発センター  
先端医療領域開発部門新生児集中治療学 教授 中西秀彦氏
- ・慶應義塾大学 医学部 小児科学教室 准教授 飛弾麻里子氏

③コンセンサスミーティングの予定について

2022年5月～8月に計4回を予定しており、理事会承認後に依頼予定である。

- ・2022年5月 第79回九州連合産婦人科学会（長崎）
- ・2022年6月 第32回日本産婦人科・新生児血液学会 学術集会（東京）
- ・2022年7月 第58回 日本周産期・新生児医学会学術集会（横浜）
- ・2022年8月5日～7日 第74回日本産科婦人科学会学術講演会（福岡）

(4)「産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編2023」作成委員会

①藤井多久磨先生を委員長としてCQの見直し等を行っている。婦人科外来編は、これまで通りDropboxを使用して投稿・高閲を進める。

②コンセンサスミーティングの予定について

2022年6月～9月に計3回を予定しており、理事会承認後に依頼予定である。

- ・2022年6月18～19日 第143回関東連合産科婦人科学会学術集会（東京）
- ・2022年8月5日～7日 第74回日本産科婦人科学会学術講演会（福岡）
- ・2022年7月～9月に単独開催（東京）を検討中

4) **コンプライアンス委員会**（竹下俊行委員長） 特になし

5) **サステナブル産婦人科医療体制確立委員会**（榎本隆之委員長）

(1)新潟県内の産婦人科医82名（新潟大学勤務医と新潟大学関連病院の勤務医）に対してタイムスタディ（勤務実態調査）を行った。結果の一部を第73回日本産科婦人科学会学術講演会で開催される指導医講習会において発表する。 [資料：サステナブル1]

**榎本隆之委員長**「新潟大学病院ならびに新潟県下の関連病院に勤務している産婦人科勤務医の1週間の勤務状況調査で、年間労働時間がB/C1/C2水準に相当する年間1860時間超えに相当する時間外労働をしている医師が48%、A水準にあたる960時間超えに相当する時間外労働をしている医師が74%いた。新潟県下の関連病院では年間労働時間がB/C1/C2水準に相当する年間1860時間超えに相当する時間外労働をしている医師が29%、A水準にあたる960時間超えに相当する時間外労働をしている医師が49%いた。このことは2024年4月の医師の働き方改革に実行までにこれまでは3-4病院の集約化が必要と考えていたが、もっと厳しい6病院以上の集約化が必要となる可能性がある。それぞれの都道府県で事情は異なると思うが、昨年行った10大学のタイムスタディではB/C1/C2水準越えの時間外労働をしている医師が26-75%いるので、それぞれの県で早急に医師の働き方改革に対する

対策について具体的な議論を始めていただきたいと思います。」

(2) 第73回日本産科婦人科学会学術講演会で開催される指導医講習会に向けて、事前会議を複数回開催した。

(3) 厚生労働省からの依頼により、2021年3月10日に「医師の働き方改革におけるC-2水準の対象技能（いわゆる高度特定技能）に関するヒアリング調査」がweb開催され、木村正理事長、榎本隆之委員長以下7名が参加した。高度特定技能に対する日本産科婦人科学会からの要望を伝え、厚生労働省の担当者と意見交換を行った。

## 6) 産婦人科未来委員会（渡利英道委員長）

(1) 第11回 産婦人科スプリングフォーラム

3月14日にオンラインにて開催した。報告をまとめて学会ホームページ「産婦人科医への扉」に掲載する。

(2) 第5回 Plus One Project 2 (POP2)

5月15日（土）、16日（日）の2日間（各々同内容）にわたって、オンライン開催の予定である。

(3) 第15回 産婦人科サマースクール

7月31日（土）と8月1日（日）の2日間にわたり、大阪・千里ライフサイエンスセンターにおいて現地開催を予定しているが、COVID-19の第四波または感染状況を確認して、オンライン開催も念頭に企画を進めている。各施設から現地参加可能かを調査しつつ、少なくとも6月中には最終的に決定する。

(4) 新企画（名称未定）

リクルートの新規企画として学部学生1-4年生を対象にオンライン企画を進めている。

(5) ホームページコンテンツ拡充

リクルート動画や産婦人科サマースクールオンラインで用いた動画コンテンツは、一般市民の目に触れた場合、炎上するリスクがあるため、窓口の一本化とともに、鍵付きログイン機能を付加し、保護に努める。

## 7) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会（海野信也委員長）

(1) 第73回学術講演会期間中（4月23日（金））、リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会企画「わが国におけるリプロダクティブ・ヘルス普及上の諸課題」をシンポジウム形式で行う。

## 8) 医療安全推進委員会（杉野法広委員長）

(1) 日本医療安全調査機構より、令和3年2月、3月の医療事故調査制度の現況報告を受領した。

[資料：医療安全 1-1, 1-2]

(2) 日本医療安全調査機構から案内の「令和2年度協力学会説明会」(3月17日(水) WEB 開催)に、本委員会主務幹事の木村文則先生が出席した。

(3) 日本医療安全調査機構より「定時社員総会」(6月3日(木) 会場とWEBの併催)の案内を受領した。本会から木村正理事長が会場出席する予定である。

[資料：医療安全 2]

#### 9) 公益事業推進委員会 (小林陽一委員長)

(1) 令和2年4月1日～令和2年3月31日まで寄附を頂いた方の名前を機関誌6月号に掲載する。

[資料：公益事業 1]

(2) バイエル薬品株式会社コンシューマーヘルス事業部より寄附についての提案があり、4月14日に小林陽一委員長、関根正幸主務幹事、吉田隆人事務局長及びバイエル担当でWEB面談を行った。

[資料：公益事業 2]

**小林陽一委員長**「バイエルの提供するコンテンツを利用するとポイントが付与され、そのポイントを寄附する仕組みで、本会は最低50万円、最高100万円の寄附が受けられる。これを進めてよいか。」

**木村正理事長**「特に問題のあるものではないので、進めていただいよと思う。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 10) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン促進委員会 (宮城悦子委員長)

(1) 3月29日、田村憲久厚生労働大臣あてに本会と産婦人科医会連名によるHPV ワクチンに関する要望書を提出した。

[資料：子宮頸がん 1]

(2) 積極的勧奨の再開を前提としたHPV ワクチンの確保に関する厚生労働大臣あて要望書について

[資料：子宮頸がん 2]

**宮城悦子委員長**「HPV ワクチンを希望する人が増えた場合に、ワクチンの供給が十分なされるように対応いただきたいとの要望書を日本産婦人科医会と連名で提出したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### IV. 令和3年度臨時総会運営について

以上